

## 11/17・18乗務員分科定期委員会かちとる

# 総力あげ運動保安確保

十一月十七日・十八日、二日間にわたり盛大に乗務員分科会定期委員会を開催した。

来賓には、中野委員長、田中書記長をむかえ活発な討論で闘う方針を決定した。

各支部乗務員分科代議委員全員の出席を確認し、会長挨拶の中で「今乗務員の置かれている現状を確認し、労働運動の原点に帰る闘いを」と強調した。

とりわけ、乗務員分科の基本である運動保安確立にむけた闘いは、乗務員個人を守る闘いでもある。

よって、今年度の闘いの基本を、当局が無理な運転を強要するなら我々は、「注意信号が現示されたら必ず四十五K/H以下の速度に、ATSが鳴動したら必ず減速する」いわゆる次の信号が停止信号だと思いつつ止出来る速度にすることを必ず守って運転し、その間の遅れは、必ず報告用紙で当局へ報告する。これを全乗務員が闘いぬけば運動保安確立のたたかいが一步前進することになることを確認した。

この闘いを全乗務員がやりきっていくことを確認した。

さらに、委員長挨拶の中で、今起きている重大事故についてJR当局は、なんら責任と具体的対策を明らかにしていない。ただ、乗務員のミスと責任を乗務員に転嫁してその場を切りぬけようとしている。

又、清算事業団について十一月末から十二月にかけて、運動保安と結合して闘う報告がなされた。

質疑に入り各代議委員より津田沼事故、常磐線事故等について活発な意見、報告がなされた。

特に、津田沼浜野支部長、千葉転繁沢支部長と関君に対するJR千葉支社の処分策動について、乗務員分科としても総力をあげて闘いぬくことを全員一致で決定し二日間の定期委員会を閉じた。

最後に、乗務員会長のおんどにより団結ガンバロウを三唱し、それぞれの職場にもどった。

## 第2波ストへ進撃開始

# 交流センターの旗の下510名 結集 都心に響く連合反対の声



十一月二三日、「交流センター」主催の総決起集会は、宮下公園に五百十名の闘う仲間を結集し、形成にむけての偉大な第一歩を踏み出した。

会場周辺は、私服どもがスキあらば弾圧しようと挑発するが、それをもとめせず意気揚々と都心デモを貫徹、カブよいシユプレヒコールは都心に響きわたった。

当面、一万人の会員獲得を目指し奮闘することを確認した。

